

第 2 号 SHG 先進事例地を視察した SHG オバチャンたち

(平成 16 年 10 月 8 日発行)

～ SHG 先進事例地視察(タミル・ナードゥ州チェンナイ): 「私も貧しいのにどうしてもっと貧しい人を助けなくちゃいけないの!」～

9 月から 11 月までの毎月、計 3 回にわけて、SHG メンバー合計 66 名が、アーンドラ・プラデッシュ州のお隣、タミル・ナードゥ州にあるジャヤチャンドランが代表を務める「CFDA (Centre For Development Alternatives)」という NGO の活動地域で SHG 先進事例地の視察を行った。

(前号でお伝えしたワークショップで、ソムニード&マヒラ・アクションのスタッフがとちめられたあのジャヤチャンドランです。)

9 月は第 1 グループとして、9 月 19 日から 23 日まで、SHG 設立後 3 年以上経っているグループメンバーばかり 22 名とスタッフ 4 名が CFDA へ視察に出かけた。ピシャカパトナムを 9 月 19 日昼 1 時半に出発した列車は、翌日朝 5 時にチェンナイに到着した。一行 26 名はそこからミニバス 2 台に分乗して、チェンナイ市内の宿舎に向かい、仮眠をとってから、CFDA 事務所に向かった。

チェンナイ市内から車で約 1 時間のところにある CFDA 事務所では、CFDA スタッフ 4 名とアクシャヤ銀行(AKSHAYA BANK)メンバー 2 名が視察チームを迎えてくれた。

アクシャヤ銀行は、CFDA が 7 年前に、SHG の組織化を始め、その SHG の中から約 70 の SHG によって運営されている女性による小規模銀行である。このアクシャヤ銀行は、現在 1,200 名近いメンバーが、年間 500 万円近い金額の貯蓄を集め、メンバーは、高利貸しからの借金返済に充てたり、日々の食費に充てるたりするためにお金を借りている。

この銀行からお金を借りるための手続きに必要な書類を整えたり、返済計画を立てたりするのは、すべて各グループの責任で、お金を借りるためには非常に強力な連帯責任制度がとられている。そのためローンの返済率は毎月利子も含めて 100%に近いという。この銀行の理念そのものが、相互扶助であり、最も貧しい女性を最優先にし、銀行に参加するすべてのメンバーが貯蓄を通じて、全メンバーの生活向上を計る、というものである。

さて、ピシャカパトナムから出かけた 22 名の SHG メンバー。SHG も設立後 3 年を過ぎる頃から、組織的に運営されていない SHG であればあるほど、もう貯蓄も返済も、毎月のミーティングも、おざなりで全く機能していないもの、もしくはなんとなく不規則に機能しているものに分類され、この 22 名の SHG メンバーも例外ではない。

ちなみに PCUR-LINK 事業がスタートする前にソムニードが関与したのは、グループの経済活動状況をモニターする調査と 2004 年 3 月の時点での各グループのグレーディング(A から D までの 4

段階評価)であった。このグレーディングでは今回視察参加者の 16 名は C と D グレードに属しているグループのメンバーばかり。わずか 6 名が B グループ、という、いわゆる成績優秀 SHG メンバーではない。

視察 1 日目はオリエンテーション、2 日目には貧困レベルチェックと SHG 訪問、3 日目に SHG 訪問、とまとめのセッションが行われた。

この視察メンバー、視察 1 日目から、CFDA のスタッフを質問攻めにした。

どうして返済率が 100%に近いの？

私たち、みんなスラムに住んでいて、みんな貧しいのに、どうしてさらに貧しいグループメンバーを優先にするの？

どうして外部の銀行からお金を借りないで自分たちの貯蓄だけで毎年 500 万円近くも銀行に預金があるの？

どうして 1 年目は 1 人月に 30 ルピーだった貯蓄が、3 年目に 60 ルピーも貯蓄できるようになったの？

メンバーの 1 人が連れ合いの病気のためにグループからお金を借りていたが、その連れ合いが亡くなって、稼ぎ手がなくなり、もう返済が見込めない、そんな場合はどうしたらいいの？

ここで、ある参加者とジャヤチャンドラン(CFDA 代表)のやり取りを紹介しよう。

SHG メンバー：「私たちみんな貧しいのに、どうしてさらに貧しいグループメンバーを優先にするのよ!？」

ジャヤチャンドラン：「では、あなたは今回視察に参加した 22 名の SHG メンバーは、みんな同じレベルで貧しいと思うか？」

SHG メンバー：「違う。」

ジャヤチャンドラン：「あなたはさっき、みんな貧しいと言ったが、今は違うという。あなたの中に何か、貧しいか貧しくないかを図るものさしがあるのではないか？」

SHG メンバー：しばらく無言...「でも私だって貧しいんだもん。」

特に、参加メンバーはアクシャヤ銀行のモットーである「相互扶助」の意味がわからなかった。「私も貧しいのに、どうして他のもっと貧しい人を SHG が助けなくてはいけないの?」というのが大きな疑問だった。この質問に、答えるためアクシャヤ銀行のメンバーが、2 日目に貧困レベルチェックをデモンストレーションした。これは、アクシャヤ銀行が新しく SHG を組織する際、また SHG の活動を評価する際(どれだけメンバーの貧困レベルが向上したか)に用いている絵入りのカードによるチェックで、現金収入以外の貧困レベルを計る。

22 名のメンバーのうち、14 名が貧困レベルチェックに参加した。絵入りのカードには、家族が 4 名以上か以下か、一家の稼ぎ手は 1 名か 2 名か、月給か日雇いか、高校を卒業した女性が一家にいるかいないか、家の屋根はセメントか藁屋根か、といった 13 項目がある。点数は貧困レベル最高

で 13 点。例えば、家族が 4 名以上なら 1 点、日雇いなら 1 点、としてゆく。レベルチェックをして、結果は、13 点満点で貧困レベルの最高点を獲得したメンバーはゼロ。最高貧困レベルが 8 点で、8 名近くはみな 4 点か 3 点であった。得点の発表後、この 3 点、4 点であったメンバーがさらに、結果に納得できずに、自分は貧しい、とまた主張を始めた。

そこでジャヤチャンドランから一喝。

「いつまでも貧しい、貧しいと主張するならそれで結構。貧しいと言い続けて、誰かが口までご飯を運んで食べさせてくれたり、誰かがお金をくれるのを待っていればいい。SHG はあなたたちには必要ない！」

一同、沈黙。

ここで、また一喝。

「SHG を始める前、あなたたちは 1 円だって、自分のお金と呼べるものがなかった。しかし今は 10,000 円でもグループの貯蓄がある。それでも自分たちは貧しいという。お金があるなしが問題ではなく、お金をどうやって使って、増やしてゆくかを知らないだけだ。あなたたちは黄金の椅子に座っていることに気づかずに、物乞いを続ける人と同然である！」

一同、また沈黙。

その後、ジャヤチャンドランは、「それがわからないから、みんなこの視察に来たのでしょう。アクシャ銀行のメンバーの SHG を訪れて、どんどん質問してください。」と今度は優しく伝えた。

それから SHG の訪問、アクシャ銀行メンバーへの質問などを通じて、視察に参加したメンバーははじめて SHG が組織的に、しかも NGO や政府、外部の銀行などに依存せずに、独自に本当の意味で自助グループとして活動している SHG を目の当たりにした。

ビシャカパトナムに戻り、この視察の様様をグループ全メンバーに伝えるという使命を持っている今回の参加者たち。ビシャカパトナムで、いくつかの視察参加者のグループを訪れたが、彼女たちはやっぱりグループのメンバーから「どうして返済率が 100% に近いの?」、「私たち、みんなスラムに住んでいて、みんな貧しいのに、どうしてさらに貧しいグループメンバーを優先にするの?」という質問攻めにあっている。彼女たちは、その一つ一つに、アクシャ銀行の SHG はこうだった、と答えている。そして少しでも自分たちでもできる事があれば実行しよう、とグループメンバーに呼びかけている。

女ばかりの 26 名の珍道中、特にセッション終了後(大抵午後 7 時近い)にやれヒンドゥー寺院だ、やれ教会だ、ビーチだ、ショッピングだ、とワイワイガヤガヤという様様をすべてお伝えできないのが残念だ。彼女たちはみんな一律に貧しくはないものの、頻繁にビシャカパトナム以外の土地へ旅行し、しかも家族めきで 1 人で 5 日間も家を空ける、など今までに一度もなかった。隣の州への視察であっても、ほとんど外国に行くような気分だった。もっともインドでは一歩、州を出ると言葉も民族も習慣も全く異なるわけで、やっぱり州を出る、ということは外国へ行くようなものであるが、ちなみに、アクシャ銀行のメンバーは年に 1 回、みんなで貯蓄したお金でタミル・ナドゥ州寺院巡りを行っている。バスを借り切って、各地の公民館や小学校に泊まったりして、グループ旅行を楽しんでいる。

視察に参加した女性たちが、自分のグループのメンバーにあれを見てきた、こうだった、うちのグ

グループでもこうしよう、ああしよう、と話しているのを見て、今回参加した SHG のメンバーの何人かが、たとえ 1 人でも貯蓄の力、グループの組織力を理解して行動に移してゆくのではないかと楽しみになってきた。彼女たちが都市と農村の SHG の連携、産直運動の担い手になること、いつかはグループで寺院巡りの旅行に出かけたり、その寺院めぐりに私(プロジェクト・マネージャー)を誘ってくれたり、私にもグループお揃いのユニホーム・サラーを買ってくれたり、PCUR-LINK で建設された生産・物流センターの利益からソムニードのスタッフの給与を出してくれたり、する日だって来るんじゃないかと思う今日この頃である。

視察第 2 グループは 10 月、第 3 グループは 11 月で、各 22 名ずつの SHG メンバーと各 4 名のスタッフの参加を予定しているが、どんな視察になるか、また視察後の SHG メンバーの変化が今から楽しみである。
